

わ  
た  
し  
の  
世  
界  
ジ  
ハ  
ード  
戦

医学ジャーナリスト・医学博士

植田美津恵

連  
載  
229

女性が  
働くと  
いうこと

# 西洋絵画と日本人

先日、久しぶりに美術館へ出かけた。コロナ禍により、少し前までは閉鎖して

べてみると、その歴史は明治に始まつたことがわかつた。

いたものが徐々に開かれる  
ようになつたが、それでも  
予約が必要な状況だつた。  
美術館を好む人は多いし、  
絵を描く人も増えている。  
私にはまつたく絵ごころは  
ないものの、モネだのゴヤ  
だのを見たくなるときがま

1872年、明治5年に湯島聖堂で行われた博覧会が、日本最初の一般向け美術品の展覧会であつたようだ。展示物をみると、名古屋城の金シャチ、古錢・古鏡・古瓦などの出土品、古兵器・茶器・楽器、農工具

ただし宗教画は聖書や神話を知らないとさっぱり面白くない。きちんとした前知識があれば、絵の楽しみ方もまた違つてくる。改めて言うまでもないことだろう。

日本の美術品といえば、絵より仏像や寺院に保管されている工芸品が主ではないだろうか。そう思つて調

標本と称して動物や骨格の標本もあり、美術品というより博物館に近いものだつたことがわかる。この博覧会は大成功をおさめ、これらの展示物は翌年のウイーン万国博覧会に出品されたといふ。

1877年に行なわれた第一回国勧業博覧会のな

かで、美術館と呼ばれる展示館が建てられたのが日本の「美術館」のスタートといわれる。しかし、あくまで博覧会の中にある美術館という位置づけであり、現在のように独立した形の美術館が定着したのは1930年代のこと、1930年に誕生した大原美術館が西

ながらもつたいたかつたと  
いう気持ちにさらされる。

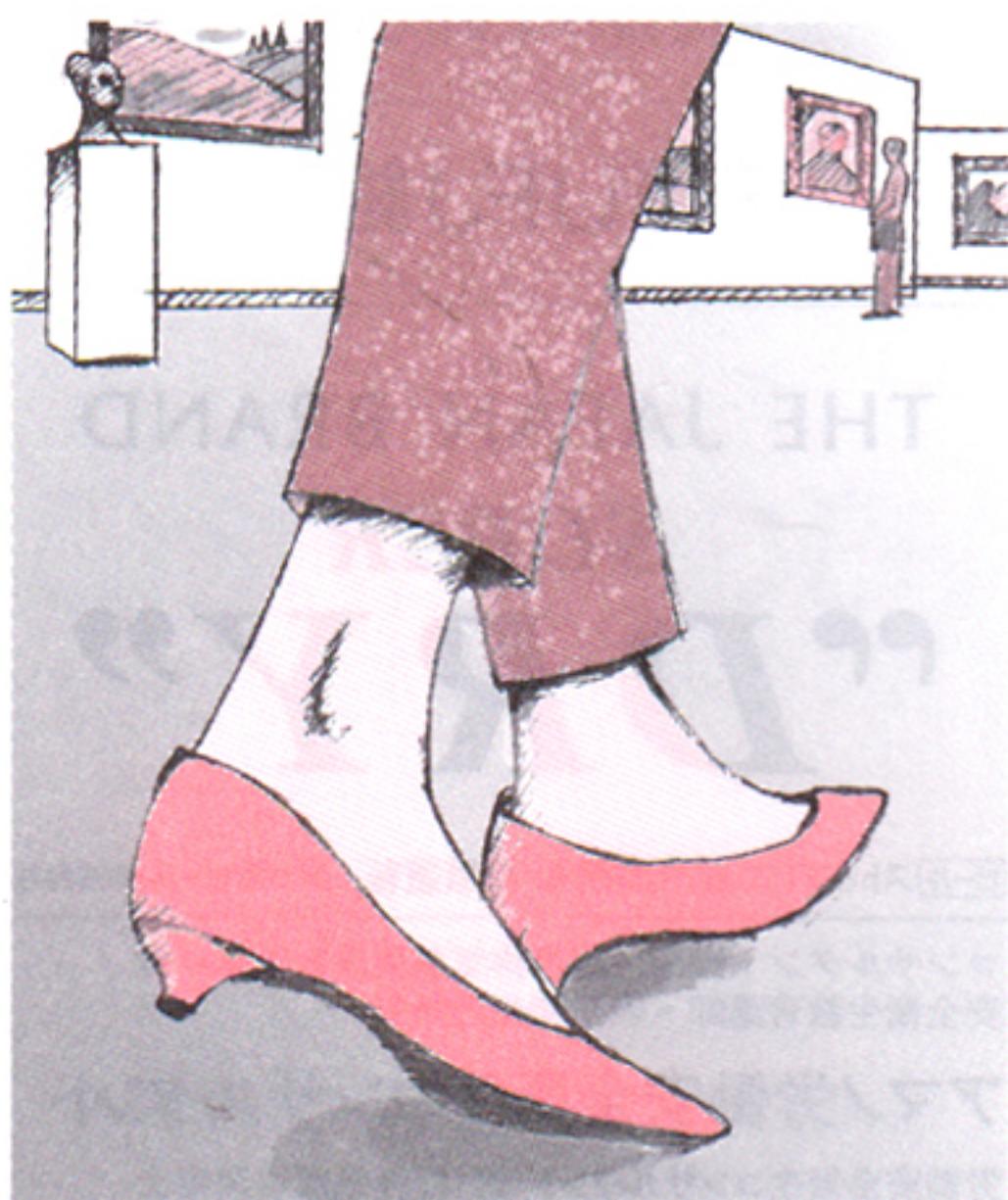
戦後、人々の暮らしは豊  
かになるにつれ、西洋絵画  
への関心は高まるばかりと  
なった。といつても、本当  
にそれらの魅力や真髓を理  
解するには、それなりの知  
識や観る目が必要なわけで  
そのような基礎を持たない

た姿も印象に残つた。本当の美術鑑賞とはこういうものだということがゴッホの絵とともに強く心に刻まれたものだ。

久々の美術館は、混雑のあまり人の流れに従うのに心奪われ、絵と向き合つて観るには程遠かつた。外国の美術館のほとんどはフリーなのに、日本の入場料が妙に高いのも気になる。

美術とは何ぞや。英語ではアートだが、アートには「技（わざ）」の意味もある。芸術家たちの崇高な魂に出会える、真に豊かなひととき。美術館にはひとりで行くのをお勧めしたい。

であるかのようにしか見えなかつた。



洋絵画を中心としたコレクションを披露し、以後東京をはじめ全国各地に美術館がオープンしていく。そういえば、私の修学旅行の行程には大原美術館が含まれていた。しかし、まつたく興味もなかつたし記憶にも残つていない。いつたい何を修学したのやら、と今更

ザの微笑み」が1974年に東京国立博物館で公開された。そのときの様子をテレビで観たが、人々が殺到し、絵画の前に群衆と化してうごめいていたのを覚えている。あれで鑑賞できているとはとうてい思えず、それは、「モナリザを観に行つた」と言いたいがため

イラスト・伊藤香澄